

みらいをかたちづくる

2023年度卒業制作展作品集

東北工業大学 ライフデザイン学部 産業デザイン学科



産業デザイン学科では、幅広いデザイン分野を対象に、
アイデアを生み出す発想力とそれを具体化する表現力を身につけます。

グラフィックデザイン / Webデザイン / イラストレーション / 服飾デザイン
映像 / アプリケーション / プロダクトデザイン / クラフト / サウンドデザイン / デザイン経営



東北工業大学 ライフデザイン学部 産業デザイン学科

〒982-8588 宮城県仙台市太白区二ツ沢6番 TEL:022-304-5560(学科事務室)

<https://www.life.tohtech.ac.jp/creative/>

[パンフレット等の請求や入試に関するお問い合わせ]

東北工業大学 入試広報課 〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町35-1 <https://www.tohtech.ac.jp> TEL:0120-611-512



一人暮らしの社会人に向けた室内照明の提案

大矢研究室では、主に「プロダクトを通して豊かな未来につながる体験価値の創造」と「産学連携による企業のブランド価値を高める活動および具体的なデザイン提案」を通じ、社会に貢献して人を幸せにするデザインの創出に取り組んでいます。

一人暮らしの社会人に非日常的なくつろぎのひと時を提供することを目的に、見ているだけで癒される「焚き火」のイメージを照明器具として具現化することに挑戦した作品です。炎が生み出す「不規則な規則性」を実現するため、木材をハンドメイドで自由変形させる手法を採用し、3DCADで基本構成とパーツの枚数を目処づけた上で、最終的なパーツ形状やパーツ間の間隔は、光の漏れ具合を確認しながら1枚1枚アナログで調整を重ねました。また、強度を確保するためにベース部は金属溶接で製作しています。デジタルのみでデザインされた無期的なプロダクトが目立つ昨今、デジタルとアナログ、木工と金工を組み合わせた本学科らしいプロダクトデザインと言えます。(指導教員 / 大矢隆一)

■ 制作学生 / 出身校
水本 万梨恵 / 岩手女子高校



大矢研究室



VRChatでの非言語コミュニケーションのデザイン

多様なメディアを介し社会に散らばる情報を収集・整理し、わかりやすく具現化する情報デザインのかたち。これが、堀江研究室が考え続けているテーマです。デザインを生み出す過程で特に大切にしているのは、街を歩くという行為。歩きながら五感を通じて得られた情報を起点に発想し、どんな体験や価値を使い手に提供できるかを徹底的に考え抜くアプローチから、「歩く研究室」とも呼ばれています。

プレイ環境・身体機能・ゲームへの没入感など、さまざまな条件からマイクを使わずに「VRChat」をプレイしている「無言勢」が、より楽しんでプレイすることができるツール開発に取り組んだ卒業制作です。実際に無言勢に試用してもらいフィードバックを反映しながらブラッシュアップを重ねる中で、ユーザーが独自でフォントや音声をカスタマイズできる仕様を採用するなど、大きく広がる可能性を秘めた作品に仕上げられました。(指導教員 / 堀江政広)

■ 制作学生 / 出身校
藤井 裕誠 / 仙台城南高校



堀江研究室



シーリングワックスのブランディング シーリングワックスと香りの可能性

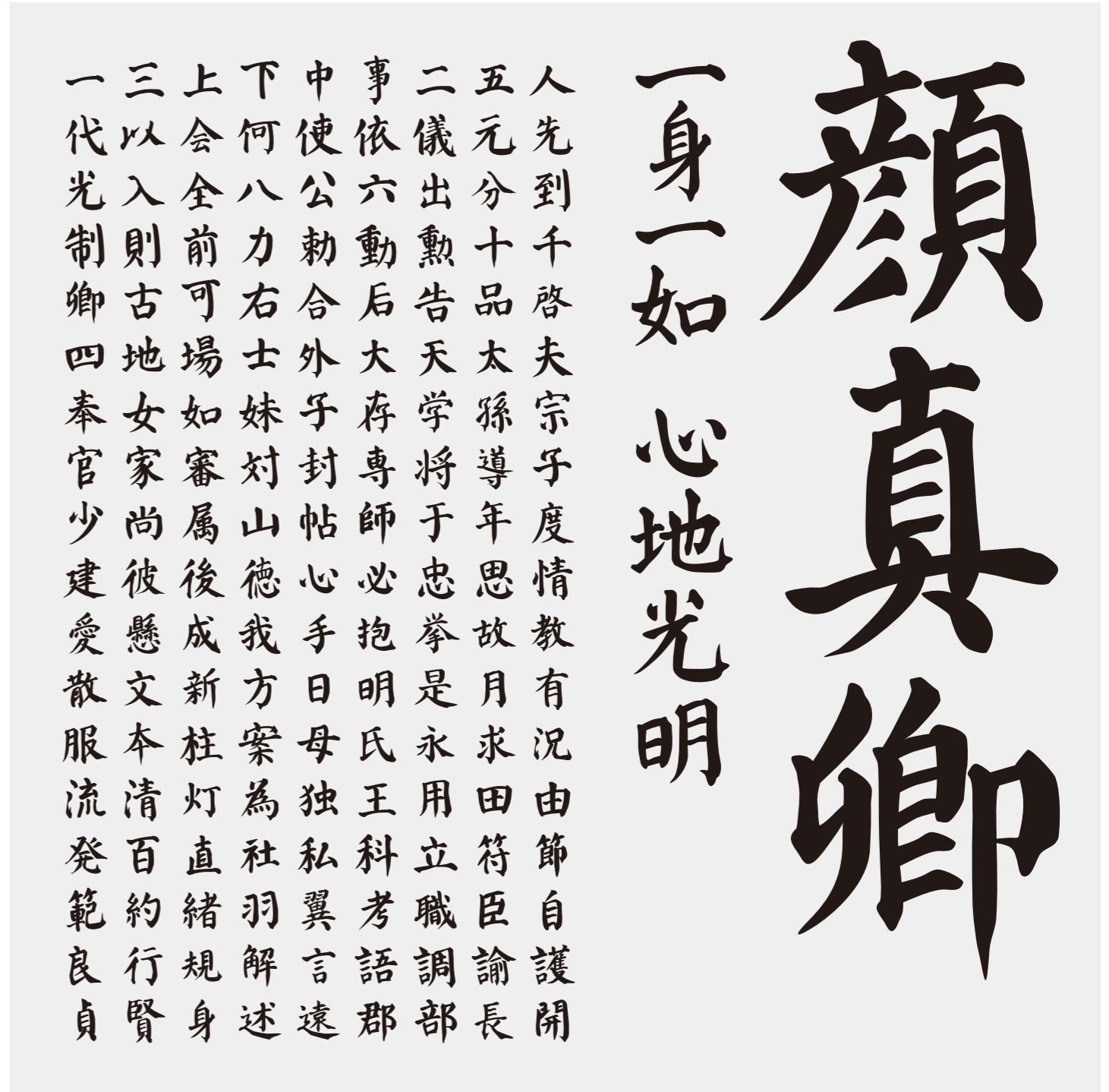
下総研究室では、デザインを組織経営の機動力とする社会貢献の研究に取り組んでいます。当制作は、高いデザインオリティのみならず、提案をきちんと世に受け入れられる内容にすべく、説得力あるマーケティングミックスを吟味し、非常に高いオリティのブランディングとしてまとめ上げた成果を高く評価しました。

香りを練り込むと、シーリングワックス(封蝋)で蝋を溶かす手間暇はより心豊かになるのではないかと。歴史の要点を抑え、過去一時は存在した香り付き封蝋は、なぜ今日存在しないのか。検証を経てマーケティング戦略の面に問題があったのではと仮説を立て、ブランディングで解決策を探ろうと当制作が始まりました。80種ほどの調合した香りから3種を厳選し、それぞれを想起させる3種のグラフィックを制作して真鍮のインゴットに刻印。香る蝋の意からkourouとのブランド名を定めてロゴを制作し、楽しむ手間暇をティータイムになぞらえて、角砂糖を連想させる蝋の形、広がる香りを連想させる箱の構造など、随所に制作者ならではの細やかな配慮が施され、どれひとつ取ってもすべてが心地よく仕上がっています。(指導教員 / 下総良則)

■ 制作学生 / 出身校
佐藤 あま音 / 宮城第一高校



下総研究室



顔真卿「自書告身帖」の復刻書体の制作

当研究室では、視覚伝達デザインにおける「文字」とその周辺のデザインを中心に学んでいます。「文字」は「言葉」を伝達可能にした視覚表現であり、人間の文化や歴史を形作ってきたツールです。そんな「文字」の構造やアーカイブを踏まえた上で、アナログ・デジタル技術を用いた温故知新のデザイン表現を追求しています。

この卒業制作は、「顔真卿・自書告身帖」の文字を元に制作した復刻書体です。力強さと筆法を活かした書体にするにあたり、原本そのままの形状ではなく全体のニュアンスなどを整えるため細かく調整がなされています。特にハネは独特の筆法を見事に再現し現代風にリファインされたものだと感じました。文字の大きさや位置に多少のバラつきは見られますが、「顔真卿らしさ」を試行錯誤した結果の到達点として評価できるものになりました。(指導教員 / 阿部寛史)

■ 制作学生 / 出身校
星野 遼 / 宮城県工業高校



阿部研究室



初対面のコミュニケーションのための椅子のデザイン

梅田研究室では、家具、衣服、食器などの身近なモノを対象に、「造形」という側面に重点をおいたデザインの研究をしています。身体で直接扱うモノ＝プロダクトのかたちを考える際には、自分の手でつくる体験から発想し造形の質を高めていくことが非常に重要です。素材の選択、それに適した道具や加工技術によるアナログ作業から、3D-CADなどのデジタル技術による検討を通して、様々な観点から「造形」に対する考えを深め、上質かつ斬新なプロダクトのかたちの可能性を追究しています。

この卒業制作は、「初対面の人同士のコミュニケーション」というソフトウェア的な課題を、椅子というハードウェアで解決しようとする挑戦でした。コミュニケーションを促す位置関係を、プロダクトの「かたち」でいかに誘導するかという機能的なアプローチと、材料の特性が活きる美しさの接点を粘り強く追究し、ユニークな造形に仕上げています。(指導教員 / 梅田弘樹)

梅田研究室



■ 制作学生 / 出身校
橋岡 堯音 / 釜石高校



重症心身障がいを持った子どもたちの 自発的なコミュニケーションの練習方法の模索

長崎研究室は、感覚的に扱われることの多い音楽やサウンドを、デザインプロセスに活用することに取り組んでいます。感覚や知覚を測定する心理学実験を応用したアプローチを軸に、「わ!」と驚いたり、ふと気持ちが和らいだりするような瞬間にも関心に向け、ビジュアルやインタラクションに関連させて丁寧に追求しています。所属学生たちは、サウンド以外にも多数の異なる分野に興味を持ち、さまざまに試行しながら学びを深めています。

重症心身障がいを持つ子どもたちの、自発的なコミュニケーションを促進する仕組みの構築を目指した卒業制作です。特別支援学校の教員の意見を集める、当事者に実際に使ってもらうなどして検証を進め、センサの感度やスイッチの形状、インタラクティブな映像の内容などを丁寧に磨き上げ、最適化することができました。持ち前の粘り強さと課題への的確なアプローチで、社会に出てからも活躍してくれることを願っています。(指導教員 / 長崎智宏)

長崎研究室



■ 制作学生 / 出身校
高瀬 折 / 宮城県工業高校



[産学連携] 南三陸塩蔵わかめを対象にしたデザイン企画

本研究室では、人々の生活の一部になるような生きたモノ・コトの創出にチャレンジしています。認知科学を始めとするさまざまな学問分野の知見を応用したり、異分野の人々・地域の人々と共創したりすることで、デザインのプロセスを広い視野で捉えることを重視しています。

この卒業制作では、地域のデザイン会社と協働し、南三陸町の塩蔵わかめのパッケージデザインに取り組みました。一番の評価ポイントは、クライアント、デザイン事務所という立場の異なるステークホルダーと密にコミュニケーションを取りながら、プロジェクトをゴールに導いたこと。また、全国のリデザイン事例からブランドコンセプトの重要性を学び、魅力的なコンセプトとブランドストーリーを構築した点、広い視野を持ってデザインリサーチを実践したことで、商品特性を踏まえた差別化を図ることができた点も見事でした。(指導教員 / 坂川侑希)

■ 制作学生 / 出身校
佐藤 慶悟 / 仙台南高校



坂川研究室



[産学連携] ウレタン・樹脂素材を用いた商品デザイン企画

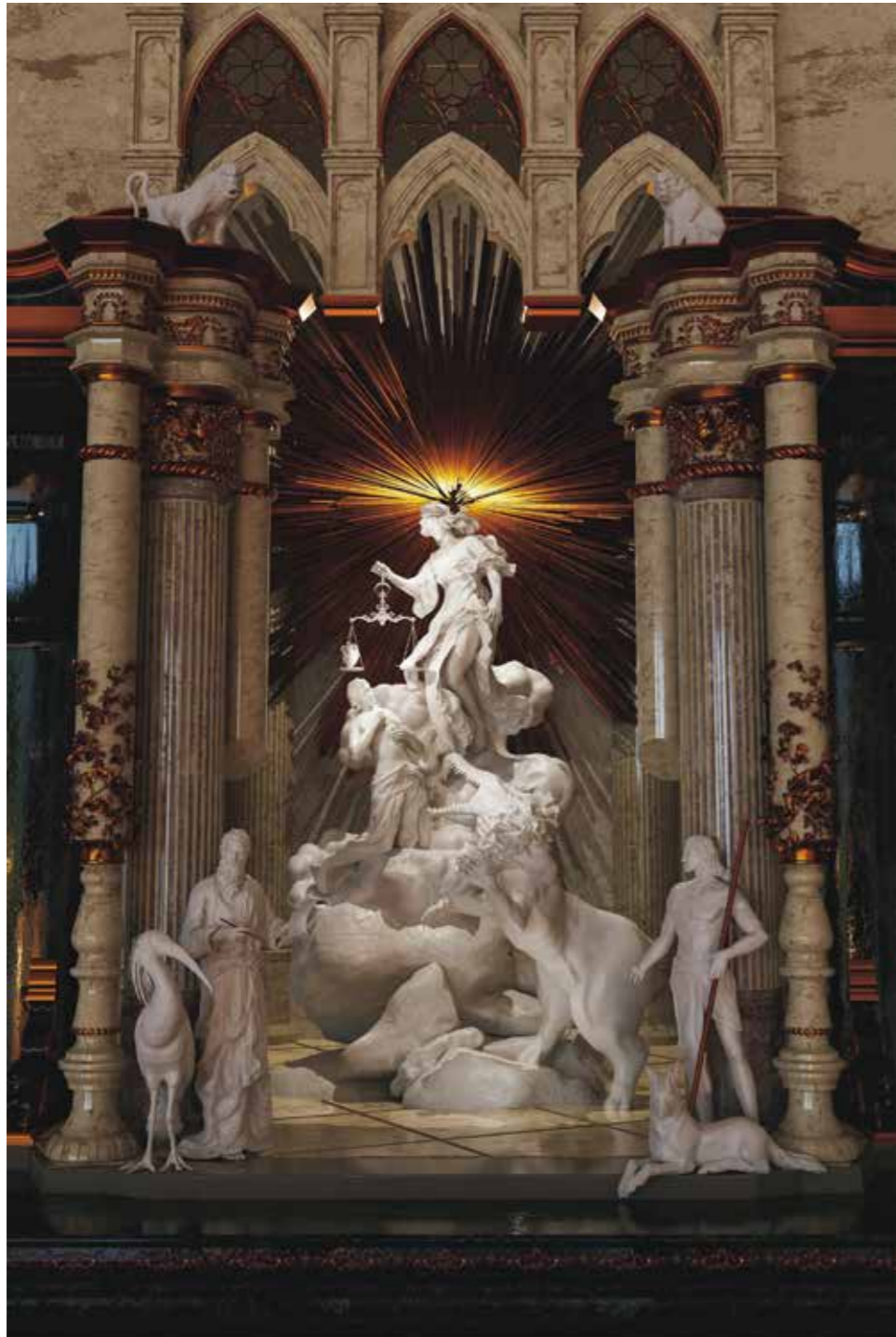
当研究室では、プロダクトデザイン、情報デザイン、デザインマーケティング、サービスデザイン、ブランディングなど複数領域に跨る総合的なデザイン企画を目指し、学生がチームになり、企業と連携し事業企画や商品企画のプロジェクトに取り組んでいます。

本研修では、ウレタン・樹脂素材製品のメーカーである(株)東北イノアック・(株)イノアックリビングと協働し、新商品企画に取り組みました。調査から企画、制作、販促までの一貫したプロセスを産学連携プロジェクトとしてやり遂げたことは、学生にとって大変貴重な経験であったと同時に、企業にとっても刺激に満ちた有意義な時間だったと思います。ユーザーへのヒアリングや試作品アンケート結果などを踏まえ、ブラッシュアップしながらアイデアを具現化し企業に提案できた点が、大変素晴らしいです。(指導教員 / 坂手勇次)

■ 制作学生 / 出身校
塚田 萌花 / 東北高校
菊地 美空 / 仙台三桜高校



坂手研究室



死者の審判をテーマにした3DCGイラストレーションの制作

篠原研究室では、ビジュアルデザイン全般の中でも、特にグラフィックデザインと3DCGを用いたイラストレーション・アニメーションに焦点を当て、今後ますます一般的になるCG表現の中でも埋没しない、力強さと柔軟さを兼ね備えたビジュアル表現を追求しています。

この卒業制作は、古代エジプトの書物『死者の書』における死者の審判のシーンを、3DCGを用いて描いた作品です。頭の中のイメージを画面上に忠実に再現するため、3DCGソフトを徹底的に使い込み細部まで描き切ったことはもちろん、『死者の書』を自分なりに咀嚼し、自身が「昔っぽさ」を感じるさまざまな時代・地域のモチーフに変換した発想力、それらが混在することで生まれる心地よい違和感を活かしながら、1枚の絵としてまとめ上げた構成力が見事です。最終形である大型パネルに映える、迫力ある作品に仕上げることができました。(指導教員 / 篠原良太)

■ 制作学生 / 出身校
佐藤 結佳里 / 橘高校



篠原研究室



若者の魚離れを改善するデザインの提案

古川研究室では、アイデアを可視化する力を養えるよう、日々思考錯誤しながら、グラフィックデザインの論理的な学習、研究、実践に取り組んでいます。社会や暮らしにグラフィックデザインのマインドを取り入れることで、未来のより良い社会を描き出してほしいと考えています。

この卒業制作は、エディトリアルデザインの手法に、学生ならではの視点による編集で創意工夫することで制作されました。自身の経験から設定したテーマに対し、読者が楽しんで知る・試せる要素がバランスよく提示されている点を評価しています。多くの写真やイラストレーションは学生自らが魚を捌いて撮影したり、実際に材料を集めて調理してレシピを検討したり、選んだ魚を隣に置いて描いたり、テーマと寝食を共にしての制作だったようです。締め切りまでの限られた時間の中で最大限努力したようですが、一方で途中経過の報告や確認をより密にすることで、さらに多くの意見を吸い上げることができたかもしれません。今後、専門職としてグラフィックデザインや印刷に携わっていく中で、卒業制作の経験を活かし、より良い未来を描いてほしいです。(指導教員 / 古川哲哉)

■ 制作学生 / 出身校
本間 萌 / 仙台高校



古川研究室